



1969年(昭和44)年生まれ  
静岡県浜松市出身  
学位：博士(工学) (2001年3月)  
専門分野：建築計画・施設計画  
石井 敏氏



1965(昭和40)年生まれ  
埼玉県ふじみ野市出身  
学位：博士(工学) (1994年3月)  
専門分野：都市環境工学  
渡邊 浩文氏

東北工業大学 渡邊 浩文学長・石井 敏副学長・建築学部長に聞く

# 時代に沿ったアップデート必要 建築での学びを活かした 多彩な人材を輩出

北海道、東北、北関東で初となる建築学部が東北工業大学に設立されてから今年4月で4年が経過する。立ち上げ当初に新型コロナウイルスがまん延するなど、通常とは違った大学・学部のかじ取りが求められる厳しい状況もあった。その苦難の中で学生生活を過ごした学部第

一期生がこの春、卒業し就職、大学院進学を迎える。4年間の全てを建築学部で学んだ学生を輩出し、学部として「完成」するに当たり、東北工業大学の渡邊浩文学長と石井敏副学長・建築学部長に設立の経緯や、学部化後の変化、今後の展望、学生たちに求めることなどを聞いた。

建築学部の学部化はいつごろから考えていましたか。

石井 大学全体はもともと、建築学科も入学獲得が非常に厳しかった。リーマンショック後の2010年ごろに遡ります。不景気等による定員割れが続いたため、当時まだ若手だった私、渡邊学長も含めた比較的若いメンバーで、これからの建築学部の在り方を検討していく案を模索することになりました。その中で出たのが建築学部の学部化です。

他大学での動きもありましたので意識しながらおりましたが、この時から本格的に調査・検討に乗り出しました。まずは手分けをして、東北各地の建築系の大学に問い、実際の状況を見て話を聞いてきました。それぞれの建築系学科が持つ特色を確認しながら、東北工大建築学部の立ち位置、果たせる役割などを探っていました。その中で当学科(当時)のように教員、専門分野の数、積み重ねてきた歴史、各地で活躍する卒業生といった充実した環境・基盤が整っている大学は非常に稀であることを再確認し、私たちにしかできないことがあることを確信しました。この強みを活かすべく、「東北工大で建築を勉強するのなら、東北工業大学が一番だ」ということを広くアピールするためにも工学部の中の建築系学科ではなく、工学部の中核として「建築系」で、工学部の充実した建築分野の姿を見せることができ、学部化を進めることになりました。

学内でも建築学科の存在は大きかったのではないですか。

石井 はじめに学部化の案を大学幹部に説明に行った際、建築学の特殊性などに理解は示してもらったものの、工学部の中で建築学科は存在感・規模も大きく、入学者を多く集める学科のついでに、工学部でなく、工学部の上にある工学部主体の体制を懸念する声は多かったですね。あと、建築学は工学の一部ではないか、という意見もありました。なかなかG.O.S.がでませんでした。なかなかG.O.S.がでない間は検討を継続し、幾度もさまざまな機会を設けてきました。東日本大震災もあり動きにくい状況が続きましたが、その中で、20年の建築学科50周年の節目を迎えた折に、卒業生からの後押しなどもあり学内外で学部化の機運が一層高まりました。一方で、国内ではすでに工科大学や近畿大学が建築学部を創設しているという状況に焦りもありました。東北、北海道、北関東で初でなければ価値が薄れるため、一刻も早い学部化が望まれました。その後、学科学科の学部化にかける熱い思いが浸透し、学内関係者の理解が得られ、大学全体として学部化の方向性に進み始めました。学内で説明する際は、建築学部が目指すところを伝え、本学が3学部になることの意義を伝えました。結果的にも3学部体制になることで、工学部とライフデ

ザイン学部の間に工学的な分野と生活・デザイン的な観点を両方を持つ「建築学部」が入るべきという役割を果たし、大学としてより安定した姿を見ることができるようになりました。

学部が学部となり変化したことは。

石井 建築学として教養である本質は基本的に変わりませんが、学部化に合わせて教員の専門の構成、パラスなども再編しました。従来、本学科は構造等のエンジニアリング系が強く、研究実績なども定評がありました。一方で設計・デザインに興味を持って入ってくる学生も多いため、今まで対応できていなかった科目やその分野の教員補充も充実させました。これは「災害と建築」といった東日本大震災を経験した本学ならではの科目を加えたほか、従来から充実していたCAD教育にBIMも加えて学ぶようにするなど、今の時代に合わせたマイナーチェンジを行いました。

学部化後、入学生に変化はありましたか。

石井 工業大学なので工業系高校からの受験が多いイメージがあると思いますが、割合は普通高校からが7割と大多数を占めます。つまり入学以前から、建築を勉強していたの3割と少数派です。学部化後はそれ以上に普通高校でも文系寄り高校生が志願比率が増えている印象です。建築はもとより文系の思考も必要で分野なので、「理系以外」の学生さんでも勉強できます。そう入試の科目選択も含めてアピールしました。その影響もあり、3年になる時点でエンジニア系の科目を多く履修する「システムデザイン」設計科目のウエイトが大きい「デザインコース」を選択しますが、これまでシステムコースが6割程度だったのが、学部化後は逆転して、デザインコースを希望する学生が多くなり、変化もありました。また、女子学生の割合も増えてきており、工学部の時は2割前後だったが、現在は3割前後にまで増えています。今年の入試では3割を越える状況なので、そういう意味では「理系」「工業」という従来の固定化された堅いイメージから離れて建築学を選んでくれる人たちが増えたと思います。担い手不足が叫ばれる中、建築は将来の仕事としても男女関係なく働ける分野なので、まだまだ女性が活躍できる余地、むしろ女性だから活躍できる分野もあると感じています。建築学部もさらに女子学生が入りやすいような工夫もしていきたいです。

設立の時期と新型コロナウイルス拡大が重なっていましたか。

石井 20年の設置当時、定員を大きく超える受験者が集まるなど、非常に良い滑り出しでした。建築学部に対する期待は高校生も、また高校の先生も大きく持ってくれたと感じています。しかし彼らを迎えて、建築学部をまさにスタートする時に、新型コロナウイルス感染症が拡大してきました。期待して入学させたものの、一日だけ大学に来て、そこからオンライン授業となり、実習科目においても、できる限り通常と同じ質のもの提供するための工夫を凝らし、オンラインだからといって後れをとることはなかったはず。そして、2年目からは一人一人の自己紹介文をまとめた「クラスメイトリスト」を、建築学部で学ぶ理由などをレポートとして書いてもらい、それらをまとめて冊子化した「ここぞ学おこ」を作成し、建築学部に入学してきた全学生に配布しました。ほかの学生が学んでいる姿を感じ、同じ目的を持って入学した同年代がいるということを知ったことで、仲間意識が持てたという声も多かったんです。

渡邊 コロナ禍でできなかったこととして、留学等の国際交流やフィールドワークも挙げられます。建築学科で実施していた、台湾との相互交流や海外研修「ヨーロッパ・中国への研修旅行」は中止となってしまいましたが、国際交流を期待していた学生も多く、叶えられないのがとても残念でした。また、フィールドワークは、直接現地に行けないという支障はあるものの、オンラインなどで駆使しながら、研究室単位で進めていきました。このほか、学生たちが絡んで楽しめる、交流を深めるイベント企画するなど、オンラインでは難しくかかった「3人1組」を因る機会を積極的に設けています。建築はそれぞれの分野でやっている内容を連携して、最終的には一つの建築物をつくるということに支えられています。この過程などで、コミュニケーションが大切になるので、さまざまな機会からその能力を身に付けていってほしいと思います。

建築学部の第1期生が今年の春卒業、就職します。

石井 「東北工大で建築を学んだ」と強く思うと入学してくる学生たちです。建築学部で学ぶことの意味や意義などを理解して、それに応じて来てくれました。建築という学問は多岐にわたります。その広さや深さを伝えられたのであれば、学部化することの意味は大きかったと思います。就職先に関しても、この先どう変化していくか興味もあって、建築特化ではなく、いろいろな業界・業種へ裾野を広げていきたいとも思っています。さまざまな分野を学ぶ意欲がある、志を持って入学した学生が入ってきてくれることで、卒業する時の進路も多様

非常に良い滑り出しでした。建築学部に対する期待は高校生も、また高校の先生も大きく持ってくれたと感じています。しかし彼らを迎えて、建築学部をまさにスタートする時に、新型コロナウイルス感染症が拡大してきました。期待して入学させたものの、一日だけ大学に来て、そこからオンライン授業となり、実習科目においても、できる限り通常と同じ質のもの提供するための工夫を凝らし、オンラインだからといって後れをとることはなかったはず。そして、2年目からは一人一人の自己紹介文をまとめた「クラスメイトリスト」を、建築学部で学ぶ理由などをレポートとして書いてもらい、それらをまとめて冊子化した「ここぞ学おこ」を作成し、建築学部に入学してきた全学生に配布しました。ほかの学生が学んでいる姿を感じ、同じ目的を持って入学した同年代がいるということを知ったことで、仲間意識が持てたという声も多かったんです。

東北工業大学 建築学部建築学科 同窓会

# 尚建会

会長 野津 弘 (1951年卒 7回生)

東北工業大学  
同窓会HP

東北工業大学建築学部完成、卒業生初輩出おめでとうございます (順不同)

<p><b>一般社団法人 宮城県建築士会</b></p> <p>会長 佐藤 幸吉</p> <p>仙台市宮城野区二十人町301-3 (宮城県建築業国民健康保険組合会館5階) TEL.022(298)8037 FAX.022(298)8038</p>	<p>住まい・街・地域の文化に新しい魅力を! 私たちは宮城のために</p> <p><b>一般社団法人 宮城県建築士事務所協会</b></p> <p>会長 高橋 清秋</p> <p>〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目2-40 宮城県建築設計会館 TEL.022(223)7330 FAX.022(223)7319 E-mail:jimukyoku@miyajikyo.com URL:https://miyajikyo.com</p>	<p><b>一般社団法人 東北空調衛生工事業協会</b></p> <p>会長 佐藤 光好</p> <p>〒980-0014 仙台市青葉区本町3-5-22 TEL.022(262)2318 FAX.022(215)4801</p>
---	--	--

<p><b>AZUSA SEKKEI</b> 株式会社 梓設計</p> <p>代表取締役社長 有吉 匠 (本 社) 〒144-0042 東京都品川区西目黒10-11 MRP 羽田3F 東北事務所 伊藤 謙一 (東北事務所) 〒983-0852 仙台市宮城野区新町4-2-3 仙台MTビル11F https://www.azusasekkei.jp</p>	<p><b>AXS</b> 株式会社 佐藤総合計画</p> <p>代表取締役社長 細田 雅幸 代表取締役社長 銘彦 剛 執行役員東北オフィス代表 新築 耕一</p>	<p><b>株式会社 山下設計</b></p> <p>代表取締役社長 藤田 秀夫 執行役員東北支社長 杉浦 光彦</p> <p>東北支社 / 〒980-0012 仙台市青葉区新町一丁目9番13号 TEL.022(225)4201代 FAX.022(225)4197</p>	<p><b>石本建築事務所</b></p> <p>代表取締役社長 長尾 昌高 執行役員 東北事務局長 松尾 和彦</p> <p>〒980-0021 仙台市青葉区中央3-2-1 青葉通プラザ tel.022-227-8367 https://www.ishimoto.co.jp</p> <p>仙台市役所本庁舎整備第1期 (2027年11月竣工予定) 宮城県民会館・NPO プラザ複合施設 (2027年12月竣工予定)</p>	
<p><b>株式会社 COS設計</b></p> <p>代表取締役会長 千葉 徹 代表取締役社長 川口 裕子</p> <p>〒983-0852 仙台市宮城野区榎岡4丁目13-1 ヌーラボ'N'4F TEL.022(256)2139 FAX.022(299)5855 E-mail:cok-yuk@mail.plala.or.jp</p>	<p><b>株式会社 アーランド</b></p> <p>代表取締役 辻 一弥</p> <p>〒983-0038 仙台市宮城野区新町4丁目16-10ランド1F TEL.022-237-3282 FAX.022-237-3283 MAIL:kazuya-tsuj@archi-land.jp</p>	<p><b>建築構造設計・耐震診断・補強設計・設計監理</b> ~建築物の安全を支えていく~</p> <p><b>株式会社 市場建築構造設計事務所</b></p> <p>代表取締役 市場 勇男 構造設計一級建築士</p> <p>〒982-0023 仙台市太白区鹿野一丁目1-3 TEL.022(247)5080 E-mail:ichibako@jewel.ocn.ne.jp</p>	<p>前・つたり 考えたり!</p> <p><b>株式会社 株式会社 氏家建築設計事務所</b> Ujiie Architect&amp;Associates</p> <p>〒980-0004 仙台市青葉区宮町三丁目9番27号 レンテアビル201号 TEL.022-224-3371 FAX.022-224-7681 E-mail:se.ujiie@ujiie-architect.co.jp</p>	<p><b>KUJI ARCHITECTS STUDIO</b> 株式会社 久慈設計</p> <p>代表取締役社長 久慈 和也</p> <p>本 社 / 〒020-0885 岩手県盛岡市相模町3-11 TEL.019(624)2020 FAX.019(622)7720 TEL.019(624)2020 FAX.019(622)7720 ネットワーク/東京・宮城・神奈川・埼玉・青森・秋田・山形・岩手・福島 ベトナム ホーチミン</p>
<p><b>株式会社 楠山設計</b></p> <p>KUSUYAMA ARCHITECT INC.</p> <p>仙台市青葉区一番町三丁目3番16号 http://www.kusuyama-arc.co.jp E-mail:info@kusuyama-arc.co.jp</p> <p>代表取締役 大宮 利一郎 東京事務所/青森事務所</p>	<p><b>株式会社 翔建築設計事務所</b></p> <p>代表取締役 大平 宏行</p> <p>仙台市太白区鹿野二丁目15番12号 TEL.022(248)7781 FAX.022(248)7721</p>	<p><b>(株)構建築設計事務所</b></p> <p>代表取締役社長 徳田 伸治 代表取締役 早坂 陽</p> <p>仙台市青葉区上杉2丁目4番46号(宮城県森林組合会館内) TEL.022(262)3301代 FAX.022(222)3440</p>	<p><b>(株)集建築設計事務所</b></p> <p>代表取締役 佐藤 孝志 代表取締役 佐藤 寛 (2000年卒)</p> <p>〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-20 二日町ホームプラザビル512 TEL.022(263)5577 FAX.022(263)5591 https://shusekkei.com/</p>	<p><b>NDS ARCHITECTS</b></p> <p>代表取締役 野津 弘 日本建築学会 登録建築師 NOZU Hiroshi</p> <p>株式会社 NDS(野津デザイン計画工房) e-mail:u.zonhi@gmail.com</p>
<p><b>株式会社 BAU建築設計室</b></p> <p>代表取締役 堀 孝之</p> <p>仙台市太白区長町一丁目6-6(ヴァリュー-N166) TEL.022(308)7650 FAX.022(308)7651</p>	<p>一般建築士事務所/測量調査設計事務所</p> <p><b>ブレンスタッフ株式会社</b> BRAIN STAFF CO.,LTD.</p> <p>代表取締役社長 仲川 昌夫 代表取締役社長 大森 義一</p> <p>山形県鶴岡市桜新町8-33 TEL.0235-24-5510</p>	<p><b>株式会社 若柳建築事務所</b></p> <p>企画・建築設計・監理・調査</p> <p>〒305-0868 茨城県つくば市台町1丁目8-1 TEL.029(886)8034 FAX.029(886)8035 URL:http://wakayanagi.co.jp</p>	<p>やってくる時代に、何をしよう。</p> <p><b>株式会社 加賀田組</b></p> <p>代表取締役社長 市村 稿</p> <p>本社：新潟市中央区万代4丁目5番15号 支店：新潟・東京・東北</p>	<p>街をつくる 人をつなぐ 技術をいかに</p> <p><b>共立建設株式会社</b></p> <p>代表取締役 東北支店 執行役員 東北支店 鎌田 典余</p> <p>仙台市宮城野区福岡四丁目3番10号(仙台TBビル1階) 022(297)5801代</p>
<p><b>佐藤工業株式会社</b> 東北支店</p> <p>常務執行役員支店長 堀 貴章 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-10-3 TEL.022(265)1670 FAX.022(265)1795</p>	<p>人に、街に、心もくもり</p> <p><b>第一建設工業株式会社</b></p> <p>代表取締役社長 内田 海基夫</p> <p>〒950-8582 新潟市中央区八千代1-4-34 TEL.025(241)8111 FAX.025(249)7474 https://www.daiichi-kensetsu.co.jp/</p>	<p><b>DAIHŌ</b> <b>大豊建設株式会社</b> 東北支店</p> <p>執行役員支店長 浅沼 和幸</p> <p>仙台市青葉区一番町2丁目1番2号 TEL.022(224)1581 FAX.022(261)5244 http://www.daiho.co.jp/</p>	<p>想いをかたちに 未来へつなぐ</p> <p><b>TAKENAKA</b></p> <p>執行役員東北支店長 鈴木 一巳</p> <p>〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-4-33 TEL.022-262-1711 FAX.022-211-0114</p>	<p>「喜び」を実現する企業グループ</p> <p><b>戸田建設</b></p> <p>東北支店 支店長 石田 亮</p> <p>〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-3-22 TEL.022(222)1273 FAX.022(222)1250</p>

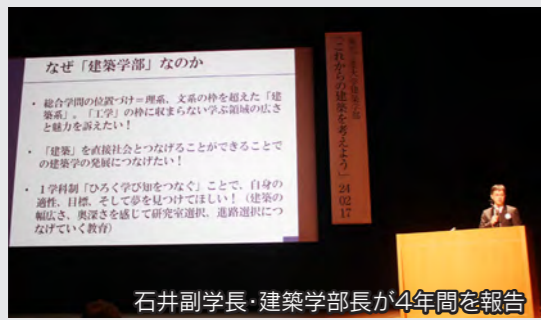
### 建築学部完成記念報告会、記念講演会

# 「これからの建築を考えよう」

2月17日に、建築学部完成記念報告会、記念講演会「これからの建築を考えよう」を仙台市の仙台国際センターで開催した。学部開設当初はコロナ禍で記念事業を延期していたため、建築学部最初の卒業生を輩出する4年目の節目を「完成年度」と位置付け、記念報告会と講演会を企画。当日は学部生、各業界で活躍する同窓生などの関係者、入学を予定している高校生など約850人が集まった。建築学部立ち上げから4年間の振り返りとともに、建築家の伊東豊雄氏（伊東豊雄建築設計事務所）と妹島和世氏（妹島和世建築設計事務所）らが講演やディスカッションを行い、学部の「完成」を祝った。

## 建築学部完成記念報告

### 「東北工業大学建築学部の4年間の歩み」



はじめに、石井副学長・建築学部長が建築学部の4年間の歩みを報告した。この中で石井副学長・建築学部長は、立ち上げの経緯や意義、コロナ禍での学生のモチベーションを維持するための取り組みなどを説明。東北工大の建築学部でしかできない学びを提供するとともに、「ものづくりの工学部、暮らしをつくるライフデザイン学部を建築学部がつなぎあわせることで、大学全体としてさらに安定した姿を見せることができる」と語った。



## 講演 「建築学部のこれから」

東北工大に先駆けて2011年に建築学部を発足した工学院大学の野澤康副学長と近畿大学の岩前篤副学長が「建築学部のこれから」と題して講演。それぞれ設立から13年経過した建築学部の状況や、今後目指すべき方向性などを説明した。



工学院大学 野澤康副学長

2015年の完成年度にはカリキュラムの大幅な見直しを行い、22年にはBIMなど新しいデジタル教育を導入した。24年度からは新しい英語教育、設計教育などを取り入れる。建築学部・建築教育はこれから多様化、グローバル化、デジタル化が求められると認識している。学部の枠を超えた他分野とのコラボレーションやグローバルに活躍するキャリアモデルの構築、デジタル・アナログの融合なども考えていくべきだ。



近畿大学 岩前篤副学長

近畿大学では、コロナ禍を契機に共通科目のオンデマンド化を進めた。今後、女子学生の増加や教育科目の再点検、教育課程の改善（入試科目、授業科目構成、採点方法など）が必要だと考えている。新たな取り組みとして25年度から、入試がいらぬ社会人対象の通信制による教育課程（リスニング）を新設する計画だ。学びたいものへ門戸を広げる。また、若手教員の海外研修や成績優秀学生の短期留学インターシップの支援なども展開したい。



建築学部生らによる集合写真

ます。大学としても合格した先輩を後輩に紹介するなど、合格者の連鎖を次の学年、世代につなげる取り組みも行っています。大学としても、大学の学びに加えて資格取得を目指すことは大いに奨励されています。大学時代に努力した証として残るもので、積極的にサポートしていきましょう。

### 学生には建築学部でのような学問を学んでほしいですか。

渡邊 建築学は技術的な面、歴史、地域性などさまざまな視野、素養が求められる分野なので、奥行きと幅の広い議論ができるという面白さを感じてもらえると思います。加えて、建築を勉強してきたことは社会に出た時に強みとなります。さまざまな分野で必要とされています。将来的に建築の世界に必ず進まなければならないと思わず、ほかの分野で建築の知識や能力を活かすこともできます。学部化によりその特性を伝えやすくなりましたし、出口の幅が広がったと考えました。石井「皆が住む家や生活の場所を「つくる」という伝えやすく、分かりやすい学問だと思います。一方で、背景にある社会の状況、事情を反映させることも大切では。例えば、自然災害が頻発化している中で、家屋倒壊の原因解明や耐震性能向上、さらには復興・まちづくりなど建築

が担う役割は大きいと思います。また、建築費の高騰や、働き手の不足など、建築を取り巻く社会的な状況も知った上で学んでほしいです。学生の間は、そのような要素はほとんど意識しなくても建築を学べますし、卒業することもできます。しかし卒業後はそうはいかない。これから時代は経済的な視点も含め、デザインや空間を考えてつくっていく必要があると思います。そうであれば社会からの要請に応えられなくなり、建築を通してさまざまな社会が見える、つながりを実感できる学問なのでその面白さも伝えていきたいです。

### 建築学部の今後の方向性は。

石井 学部設置から4年が経つ中で、あらためてカリキュラムや学びの仕組みを含め少し変えたい。10を超える大学の建築学部を立ち上げ、建築学部にしただけで注目され、学生が集まってくる時代は終わりました。改めて他大学と差別化を図り、「こゝ（仙台）東北だからこゝ（仙台）建築学部」など新たなカラーを出していかなければなりません。また、講義の中身も時代に即した、求められているものに合わせ、アップデートしていく必要があります。さらに、4月から大学院も工学研究科から分離し、建築学は工学研究科から分離し、建築学は計画・設計・構造・材料・デザイン、歴史・環境・設備などもともと全く違う学問が一つになって構成されたいと考えています。

渡邊 学制制から課程制への検討は主に工学部で行われています。議論しているのは、学問系列を超えた分野横断の学びの提供です。例えば私は、建築設備分野を専門としていますが、電気・機械など設備の技術者不足は著しいです。本学工学部の電気電子工学や情報通信工学などを専攻した学生が設備建設会社に就職することもあってもいいと思います。事例が少ないのも現状です。分野横断の学び、興味のある学生が専攻する学びと違う課程の科目を体系付けて学べるようになります。意欲とチャンスに思えば、工学部内の他分野の学びもパッケージ化して学び、自分の可能性を広げることもできます。また、本格的な議論はしていませんが、建築学部の導入も視野に入れて、建築学部の導入も視野と全く同じ形式とはいかないかもしれませんが、意欲ある学生が分野を跨いで学習できる場を用意していきたいと考えています。

石井 学生には本学の建築学部で4年間勉強し、力を付けて卒業するという自信を持ってほしいです。さまざまな場面でも本学の卒業生と会う機会があると思うので、その交流も大切にしてほしいです。加えて、昨年12月に企業交流会を開催し、多くの企業に参加していただきました。その関係性は一朝一夕で構築されるものではなく、50年、60年の積み重ねがこのように繋がりに



2022年9月完成の八木山キャンパス実験・教育棟「Tech-Lab」(テクラボ)

## 東北工業大学建築学部完成、卒業生初輩出おめでとうございます (順不同)

建築学部開設、卒業生初輩出おめでとうございます

**清水建設株式会社**

常務執行役員支店長 清水 康次郎

東北支店 / 仙台市青葉区木町通一丁目4番7号  
電話 022-267-9111(代表)

スマートな未来へ New Business Contractor

**飛鳥建設株式会社**

東北支店  
執行役員支店長 山上 雅弘  
〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53 TEL.022(275)9951

**株式会社 ナカノフード建設**

代表取締役社長 飯塚 隆  
〒102-0073 東京都千代田区九段北四丁目2番28号 NF九段  
TEL.03(3265)4661代

**株式会社 福田組**

東北支店  
上席執行役員支店長 追木 博幸  
〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目10番14号  
TEL.022-722-1810 FAX.022-722-1737

150周年 人・仕事・社会を磨き続け、建設事業を通じて、社会に貢献する

**松井建設株式会社**

執行役員東北支店長 菱沼久徳  
東北支店/仙台市青葉区一番町3-1-1 TEL.022-263-1521

**向井建設株式会社**

東北支店  
常務取締役東北支店長 稲村 忠夫  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目5-17  
TEL.022(267)2611 FAX.022(267)3159

私達は、「信頼」を基に皆様の「思い」を「創造」して行きます。

**株式会社 ARM**

代表取締役 阿部 奨  
〒982-0802 仙台市太白区八木山東1丁目16-22 1F  
TEL.022(307)6522 FAX.022(307)6523

地域ビルダーとして社会に貢献するー

**赤坂建設株式会社**

代表取締役 佐藤 渉  
本社/仙台市青葉区上谷刈字赤坂9-2  
TEL.022(372)5111代 FAX.022(372)3501

ここを、ひとつに。他にない、ひとつを。

**株式会社 阿部和工務店**

代表取締役社長 船山 克也  
古民家再生、神社・寺院建築も承ります  
仙台市青葉区上谷一丁目17番18号阿部和ビル  
TEL.022-264-0411 FAX.022-225-5244  
https://www.abekazu.co.jp

つくります あなたの笑顔と 信頼と

**阿部建設株式会社**

代表取締役 大槻 秀樹  
本社/仙台市青葉区中江2丁目23-20  
TEL.022(223)8115代 FAX.022(216)3550

The Heartwarming Company.

やさしさ思いやりで未来をひらく。

**株式会社 小野組**

代表取締役社長 小野 貴史  
東北支店/仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台3F  
TEL.022(727)7220 FAX.022(727)7223  
URL http://www.ono-gumi.co.jp

一般社団法人

**和合館工学会**

WAKAGAN Culture Crossing Center of Engineering  
学舎長 今西 肇(東北工業大学名誉教授)  
仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台3階 TEL.022(272)3130

それは 未来へ残す ものづくり

**株式会社 小原建設**

代表取締役社長 小原 学  
本社/岩手県北上市村崎野15地割312-8  
TEL.0197(66)3125 FAX.0197(66)5438  
西和賀営業所/岩手県西和賀郡西和賀町清水ヶ野18-3-7  
TEL.0197(84)2142

未来をつくる DNA

環境・生活支援企業

**EAST SASAKI**

株式会社 佐々木組

総合建設業

地域とともに75年

**佐藤工業株式会社**

代表取締役社長 八巻 恵一  
本社/〒960-8610 福島県福島市泉字清水内1番地 TEL.024-557-1166(代)  
支店/郡山・伊達・相双・仙台

地域とともに これまでも これからも

国土交通大臣許可(特)第528号

**関場建設株式会社**

代表取締役社長 関場 直隆  
本社 南相馬市原町区錦町一丁目一番地 ☎(0244)25-2525(代)  
ホームページ https://www.sekiba.co.jp Eメール sekiba@sekiba.co.jp

人に、街に、大地に。

**仙建工業株式会社**

代表取締役社長 中村 知久  
本社/〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目2-13 TEL.022(225)8511

100年企業その先へ

**TAKAYA**

SINCE 1930  
〒020-8588 岩手県盛岡市本宮五丁目5番5号  
代表取締役社長 細屋 伸央

自然にやさしい、人にやさしい

**千田工業株式会社**

一定建設業、一般建築設計事務所、宅地建物取引業  
代表取締役社長 千田 弘美  
岩手県北上市九龍一丁目10番29号  
TEL.0197-63-3207

DOHZI 地域と融和し豊かな未来を

**同事建設株式会社**

代表取締役 芦野 正吉  
〒982-0037 仙台市太白区富沢西4-19-19  
TEL.022(307)4384 FAX.022(307)4306

まちを、ワクワクさせる建設会社

**中城建設株式会社**

代表取締役 結城 創  
本社/仙台市宮城野区幸町2丁目23-1  
TEL.022(297)1611 FAX.022(299)6761

ふるさとに「にぎわい」と「元気」を創る地元ゼネコン

**株式会社 仁田工務店**

本店 〒021-0883 岩手県一関市新大町1-2-4番地 ☎0191-23-2740  
仙台支店 〒981-3185 宮城県仙台市青葉区八乙女中央1丁目1番6号 ☎022-797-3050

夢、かぎりなく。 定時通達 創業明治11年 145周年

**株式会社 橋本店**

HMT  
www.hashimototen.co.jp

**HIRANO GUMI**

平野組  
https://www.hiranogumi.co.jp/

未来につながるものづくり BUILD CORPORATION

**株式会社ビルド**

代表取締役 大沼 昭  
本社/〒982-0012 仙台市太白区長町南一丁目8-18  
TEL.022(308)3788代 FAX.022(308)8565 https://www.build.co.jp

この街をあなたとともに 総合建設業

**株式会社 深松組**

代表取締役社長 深松 努  
本社/〒981-0966 仙台市青葉区荒巻本三丁目18-1 TEL.022(271)9211  
東北営業所 〒987-0511 釜石市追分佐沼字萩1-2-11 TEL.0220(23)2871

空から見える、いい仕事。

**株式会社 丸本組**

代表取締役社長 佐藤 昌良  
本社/宮城県石巻市思ひ野三丁目1番地2 TEL.0225(96)2222  
仙台支店/仙台市青葉区国分町三丁目11番9 TEL.022(797)4744

特別講演

「これからの建築を考えようーみんなの家を通してー」

建築家・伊東 豊雄氏(伊東豊雄建築設計事務所)、妹島 和世氏(妹島和世建築設計事務所)



伊東氏

震災があった年の秋に、第1号のみんなの家を仙台市の宮城野区につくった。仮設住宅に住み始めたばかりの方たちが集まってくださり、どのような空間が望ましいか打ち合わせを行い、さまざまな意見を反映させながら完成を迎えた。仮設住宅での生活を余儀なくされた人から「仮設住宅は自分の家に帰ってきたと思えなかったけれども、みんなの家のおかげでやっと自分の家に帰って来たような気分になれた」と言ってもらえて感激した。みんなの家は縁側があり、土間があり、まさに昔の記憶の中にある民家、日常を縮小した建築なのでそう感じていただけたのだと認識している。それまで、都市の住宅ばかりを考えていたが地方のコミュニティー、家づくりを考え直すきっかけになった。

2001年に開館したせんだいメディアテークは、私の人生でも印象深い作品だ。完成までさまざまなコンペティションなどを繰り返す中で、私は社会に呼ばれていない建築家ではないかと考えていた時期もあった。しかし、実現し、多くの方々が使ってくれたことで建築を造っていく勇気と生きる力をもった。人に生きる力を与える建築とは①精神の豊かさ、自由を感じさせる②一人でいても人とつながっていることを感じさせる③生きていく勇気や未来への希望を与えてくれるーものだと考える。



みんなの家について語る伊東氏(右)



妹島氏

「みんなの家」をつくっていく中で心に残ったことが2点ある。まずは、私自身がまちのことを考えていた時に、地域住民が「孫の代に自慢できるまちを、自分たちでつくってほしい」と話している声聞き、「自分たちで町を良くしよう」という思いがあれば、自分でまちを創ることができると気付くきっかけになった。また、みんなの家をどのようにすればより使用してもらえるかを模索していた際に「自分の家だと思って使うから心配しなくて大丈夫」と言ってもらえたことも印象深い。それまで、公共建築を設計する場合などに、まちに自分自身が関わるといことを、想像できていなかった。

た。しかし、みんなの家を通して自分も社会を形成する一員だと思えるような場所を造っていきたくて考えるようになった。従来から建物内部での利用者同士の交流を促すことを考えていたが、みんなの家に携わってからは、その風景の一部として地域に根差す、地域に足がつく建築として建物が風景の一部になり、来た人々も使用することで建築物の一部になれるような建築を目指して設計している。



妹島氏による特別講演

ディスカッション

伊東 豊雄氏×妹島 和世氏×柳澤 潤氏×近藤 哲雄氏

モデレーター：福屋 粧子(東北工業大学建築学部教授)

**伊東氏** 地元の人たちがほかの地域に移らず、どのようになればそこに残ってくれるかを考えることも重要だ。知人の言葉で「文化は土に向かうこと、文明は土から離れていくことだ」というのが印象に残っている。文化はその土地、地域と向かい合うことで成熟して成り立つ。一方、文明は技術さえあればすぐに発達して、土から離れていく。みんなの家を通じて文化を考えることが、その土地の人々が残ってもらえることにつながるはずだ。



伊東氏(右)と柳澤氏

**妹島氏** 日常のさまざまな出来事は、建築につながっている。「ここまで建築に必要な要素だ」と自分で分けてしまえばもったいない。自分が過ごす時間を大切にしながら、建築に関わってほしいし、若い人たちは、大きな可能性を持っている。自分の思うことをやり続け、さまざまな要素に対応しながら建築に取り組んでほしい。



**柳澤氏** 現大学4年生は入学当初からコロナ禍で外に行けずオンライン授業が多かった。しかし、建築を直接見に行かないと、いくら頭で考えてもわからない部分がある。とにかく建築を生で見てほしい。そして、その土地の人たちと対話し、学生だから

こそできる質問を投げ掛けることも大切だ。今の大学教育はなるべく学生に失敗しないように配慮する前提となっている。失敗しないために、さまざまな伏線を持って人生を送っているとすれば、その中に建築が介在する意味はない。さまざまな人と携わり、建築を見て、自分を削って、失敗を重ね今後の人生、これからの社会に立ち向かうことを願う。



**近藤氏** 学校の課題は人との差異を競うものが多いが、建築家の活動は社会に深く接続していて、人とは違っていても今学んでいること、設計したものはそこで終わりではない。違うプロジェクトに生かされたり、また違

最後に特別講演を行った伊東氏、妹島氏に建築家の柳澤潤氏(コンテンツ・リサーチ)と近藤哲雄氏(近藤哲雄建築設計事務所)を加え、ディスカッションを展開。みんなの家への思いを語ったほか、それぞれが学生へエールを送った。

うことにつながっていくと考えている。われわれは常日頃、「新しい建築とは何か」を模索するが、最先端の建築とは、誰も見たことがないながらも、なるべく文化的な部分や新しい部分を排除せず、すべての要素を踏まえていけるようなものだと思う。



妹島氏(左)と近藤氏

八木山キャンパス5号館見学会

記念講演会に先立ち、建築学部と建築学科同窓会・尚建会(野津弘会長)の主催により、解体が予定されている東北工大八木山キャンパス5号館の見学会も実施した。約60人が参加し、当時使用していた懐かしの教室、演習室などをめぐり、それぞれの思い出話に花を咲かせた。



参加者で集合写真



5号館データ

設計=山田守建築事務所、  
施工=鹿島  
竣工:1968年3月  
構造:RC造、一部SRC造、  
地上5階・地下3階建て

1978年の宮城県沖地震で壊滅的な被害を受けたが耐震補強を繰り返し、2011年の東日本大震災では大きな被害もなく大地震に耐えた。50年以上にもわたり約9000人の卒業生を輩出してきたが、22年10月に竣工した実験・教育棟(愛称「Tech-Lab(てくらぼ)」)の完成により役目を終える。

懇親会

報告会・講演会終了後は懇親会を開催し、卒業生、学部生らが交流を深めた。来賓として駆け付けた東京大学名誉教授・工学院大学名誉教授の長澤泰氏と、台湾・中原大学教授で台湾建築学会理事長の曾光宗氏があいさつ。

また、在学生3人が「東北工大で建築を学んで」をテーマにそれぞれの思いをスピーチした。



渡邊学長の乾杯の首領で祝宴に移った

建設新聞社HPにも企業様から在学生・卒業生へのエール文を掲載していますので、是非ご覧ください。

東北工業大学建築学部完成、卒業生初輩出おめでとうございます

(順不同)

**太平電業株式会社**  
https://www.taihei-dengyo.co.jp  
豊かな社会とこれからも。× 社会の当たり前を支える。  
本社 〒101-8416 東京都千代田区神田神保町2-4 TEL:03-5213-7211 (代表)  
代表取締役社長 野尻 稔  
東北支店 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 16階 TEL:022-225-5031  
執行役員 東北支店長 龍野 淳一

**宮城建設株式会社**  
代表取締役社長 菅原 博之  
〒208-8031 岩手県久慈市新中の橋第4地割35番地の3  
TEL:0194-52-1111 FAX:0194-52-1297

**株式会社 八重樫工務店**  
代表取締役 八重樫 司  
本社 〒989-1245 宮城県柴田郡大河原町字新南20-5  
TEL:0224(52)1736 FAX:0224(53)4778  
URL:https://www.yaegashi-k.co.jp

**SANKEN 三建設備工業株式会社**  
東北支店長 吉嶋 克彦  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22  
TEL:022(221)3331 FAX:022(225)4108

**DS 第一設備工業株式会社**  
代表取締役社長 田島 久男  
〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-33 TEL:03(5443)5100

**大成設備株式会社**  
代表取締役社長 田行 啓一  
本社 〒163-0217 東京都新宿区西新宿2-6-1  
TEL:03(6302)0150

**ダイタン 東北支店**  
執行役員支店長 平間 浩  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番17号 TEL:022-225-7901  
http://www.daitan.co.jp/

変わるをつくる  
**ECOLA**  
代表取締役 百田 好徳  
本社 仙台市青葉区春日町9番15号 THE6 3F TEL:022(395)4131 FAX:022(395)4132  
郡山支店 福島県郡山市朝日1丁目6-9 OKADA BLDG.2F TEL:024(991)4335 FAX:024(991)4588  
URL:https://ecola.co.jp/

時代の呼吸に応える技術  
**東洋熱工業株式会社**  
代表取締役 谷口 昌伸  
執行役員支店長 長嶋 栄治  
本社 〒104-8324 東京都中央区京橋2-5-12  
東北支店 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-12-7 三共仙台ビル6F  
TEL:022(264)2181 FAX:022(227)9375

屋根のリーディングカンパニー  
**Sanko 三晃金属工業株式会社**  
東北支店長 中山 尊博  
東北支店/仙台市青葉区木町通1-8-28 三晃木町通ビル 4F

**株式会社 興盛工業所**  
代表取締役 小林 照和  
〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町1-1-35  
TEL:022-236-3511 FAX:022-236-3661

暮らしを支え、未来へつなぐ  
東北の総合エンジニアリング企業  
**DAIWA 大和電設工業株式会社**

確かな技術で地域の幹となり夢を支える  
電気・空調・給排水衛生工事 設計施工  
**隼電気株式会社**  
代表取締役社長 千葉 ミオ  
本社 〒984-0042 仙台市若林区大和町5丁目30番22号  
TEL:(022)284-8823 FAX:(022)284-8831

**Yurtec 株式会社 ユアテック**  
取締役社長 太田 良治  
〒983-8622 仙台市宮城野区榴岡4丁目1-1  
TEL:022(296)2111(代)

豊かなる未来に向けて  
**株式会社 成和**  
代表取締役社長 高橋 省一  
本社/宮城県大崎市鹿島台木間町字在家117番地 TEL:0229(25)3541 FAX:0229(25)3542  
鋼管工場/宮城県大崎市鹿島台木間町字新三丁目19番地 TEL:0229(56)3588 FAX:0229(56)2681  
https://www.seiwa-matsushima.co.jp/

**有限会社 加藤工務店**  
〒987-0331 宮城県登米市山町中津山字高橋297-1  
KATO KOMUTEN TEL:0220-29-5505 FAX:0220-29-5506

秋田の暮らしに「ぴったり」の家。  
**株式会社 サンコーホーム**  
https://www.sanko-home.co.jp/

室内気候をデザインする  
放射冷暖房と加湿器の専門メーカー  
**ピーエス株式会社**  
TEL:03-3485-8189 / Mail: info@psk.co.jp SINCE 1960

**藤井産業株式会社**  
代表取締役社長 藤井 昌一  
〒321-0905 栃木県宇都宮市平出工業団地41番地3  
TEL:028-662-6060 FAX:028-662-6063  
Mail:jinn@fh.fujii.co.jp URL:http://www.fujii.co.jp/

地域を動かす仕事を。  
**吉田産業**  
株式会社吉田産業 代表取締役社長 吉田 誠夫  
〒031-8655 青森県八戸市大字三丁目1 TEL:0178-47-8111 FAX:0178-47-8121  
専攻内容:建設費材、環境費材、土木費材、住宅設備機器の販売および施工、工事情報の販売

SPACE HOUSE **スペースハウス 製造元**  
**株式会社 オオマチワールド**  
代表取締役社長 鈴木 敦  
本社 〒983-0006 仙台市青葉区本町2-30-46 TEL:022(387)10800 FAX:022(786)0233  
支店/仙台、盛岡、福島、いわて、宮城、秋田

**SHOBUNDO**  
www.shobundo.biz  
株式会社 庄文堂  
仙台市青葉区中央2-5-9 庄文堂ビル3F 〒980-0021  
tel:022-223-2323 fax:022-263-1488

**総合資格学院**  
仙台校 仙台市青葉区白旗1-1-17  
TEL:022-217-8421  
法人講座 建築士試験 建築士試験 建築士試験  
建築士試験 建築士試験 建築士試験  
建築士試験 建築士試験 建築士試験

**SENDAI MARK ONE**  
第一ビル株式会社  
取締役会長 佐々木 光雅  
〒980-8485 仙台市青葉区中央1丁目2-3 仙台マークワン11F  
TEL:022-265-4311 FAX:022-265-4315  
https://www.dai1bldg.co.jp